

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472401338	事業の開始年月日	平成18年3月1日	
		指定年月日	平成18年3月1日	
法人名	ミモザ株式会社			
事業所名	ミモザ茅ヶ崎萩園			
所在地	(253-0071) 神奈川県茅ヶ崎市萩園1202			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成23年6月30日	評価結果 市町村受理日	平成23年8月25日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりに笑顔で寄り添い、ご利用者が居心地の良い、安心した生活の場となるよう創っていこうと、日々スタッフ間で話し合いコミュニケーションをとっている。
また、職員が毎食手作りしてお食事を提供しているため、季節ごとの行事食にも心のこもった対応をしています。
スタッフの異動が少なく、家族・利用者様双方と顔なじみの信頼関係を構築できているため、スムーズな介護が提供できています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成23年7月26日	評価機関 評価決定日	平成23年8月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

＜事業所の優れている点＞

◇利用者本位のケア姿勢

事業所の理念と介護の心得にのっとり、職員は明るさとチームワークの良さで利用者の意思(志)を尊重した温かい支援に取り組んでいる。職員は利用者寄り添って話を聴き、一人ひとりのペースに合わせた利用者本位の支援を実践して「安心と安らぎのある暮らし」を支えている。

◇地域との交流

町内会のお祭りや盆踊り、敬老会に利用者が地域の一員として参加するなど、利用者と地域の繋がりを大切にしている。

中学生の福祉体験学習を受け入れ、交流の様子を事業所と中学生側の双方で、地域の福祉祭りの展示コーナーに発表して交流を深めている

＜事業所が工夫している点＞

◇運営推進会議の活用

災害対策の避難訓練では、運営推進会議の席上自治会にも協力をお願いし、東日本大震災の教訓を活かして、利用者が状況に応じて安全な場所に避難できるよう検討を重ねている。

◇協同作業による菜園作り

前庭に職員の発案で菜園を作り、胡瓜や茄子、ししとうなどを利用者と一緒に育てて楽しんでいる。収穫した野菜は食卓に供し、食事中も話題が弾んでいる。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ミモザ茅ヶ崎萩園
ユニット名	しおかぜ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

ミモザ茅ヶ崎菰園（しおかぜ）

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・事業所独自の理念と職員の介護の心構えとしての理念10か条を掲げ、管理者と職員は、話し合い、理念を共有しサービスに反映するよう日頃から努めている。	・事業所独自の理念と介護の心得を事務室に掲示し、職員会議や全体会議で話し合い実践に反映している。 ・スタッフは常に、利用者に寄り添って話を聴き、意志を尊重した温かい介護に努め、理念と介護心得の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会、町内会に加入して地域の行事に参加し、また地域ボランティアの受け入れや地元の小・中学校との交流を行っている。	・自治会に加入し、桜祭りや盆踊り、敬老会など地域の行事に参加している。神輿が事業所に立ち寄ってくれ利用者も祭りを楽しんでいる。 ・近隣のボランティアの協力を得て、レクレーションや書道教室を行い、地元の小・中学校とも交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域住民の介護相談などを積極的に受け、地域住民が気軽に立ち寄ってくれるホームを目指している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎回入所人数、ホームの行事、見学者、ボランティアの受け入れ等報告している。	・運営推進会議を2か月ごとに開催し、自治会、民生委員、家族代表、地域包括センター、市の高齢福祉介護課の担当者が参加している。 ・会議では事業所の近況や課題を報告し、参加者の意見を聴き、避難訓練では、近所の方に参加して貰うなど、結果を運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・茅ヶ崎市の意見交換会や研修会に積極的に参加をして、サービス向上に努めると共に、介護相談員を毎月積極的に受け入れている。	・市の担当者とは、メールや電話で利用者の情報を得たり、入居にあたっての相談をするなど、密に連絡を取っている。 ・市が主催する意見交換会や研修会に参加し、市の担当者や他の事業所との関係作りに努めている。	

ミモザ茅ヶ崎菰園（しおかぜ）

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束をしないケアについては、マニュアルもあり、また、委員会を作りスタッフが常に意識できる環境を作って取組んでいる。	・身体拘束をしないケアを基本方針としている。身体拘束防止委員会で、スタッフは拘束にあたる事例について学び共有している。 ・安全面への配慮と家族の希望から、1階の玄関は電子錠を設置し、2階のユニット入り口も施錠している時間が多い。	・スタッフの連携による見守りを強化するほか、委員会や運営推進会議でも検討して、玄関、ユニットの入り口は、できるだけ日中鍵を掛けない介護に取り組まれることが期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・利用契約書、重要事項説明書に明記、虐待・拘束の厳禁を各職員に徹底すると共に、外部研修会への積極参加促進を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・地域福祉権利事業や成年後見制度についての研修に積極的に参加し、職員間で内容の共有化を図り、意識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・利用契約時にしっかり説明し、納得を頂いた上で契約をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ケアプラン作成時、利用者やご家族の希望を聞いたり、日常生活の中で利用者と職員が信頼関係を築き、利用者が意見を自由に言える様努めている。	・意見箱を設置している他、家族との面会時に時間をとってもらい、直接意見や要望を聴いている。 ・ご利用者本人の意見や要望は、日常生活の中で聴取し、些細なことも取り上げて、その都度運営に反映している。	

ミモザ茅ヶ崎萩園（しおかぜ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回のスタッフ会議や毎日の申し送りに中で、意見交換等は行われており、要望書の提出も行われている。	・スタッフ会議や全体会議、申し送りなどの機会に運営に関する意見や提案を聴いている。 ・管理者は職員の個別相談にも乗り、話しやすい環境を作っている。 ・スタッフの提案で、前庭に採園を作り、利用者に喜ばれている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・勤務実態について、代表者は毎月把握しており、スタッフ会議等で出される要望についても、検討し回答するなど環境整備に心がけている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・代表者は、個人別研修の記録により計画的に外部研修を受けれるよう体制を整えている。また、社内で研修センターを作り、それぞれの立場で育成を行う取り組みが確立している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・管理者またはケアマネージャーが2ヶ月に一回、茅ヶ崎市の施設部会や地域連絡協議会に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居事前相談時より利用者が持っている不安、困難、疑問を時間をかけてお聞きし、「傾聴と需要」の姿勢を忘れずに信頼関係を築くよう努めている。		

ミモザ茅ヶ崎萩園（しおかぜ）

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族の一番困っていること、心配事をお聞きして、必要と思われる情報を積極的に提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談をじっくり聞き、入居が適切か他のサービスが適切かを見極め助言している。情報の提供は行われており、一緒に一番適切なサービスを探っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・日常生活の中で、各ご利用者の得意だったことを教えてもらったりして支えあい、些細なことでも、目標を持って取り組むようにしそれが出来た時は職員と共に喜びを分かち合っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族も一緒に行事に参加していただき、共通の話題を持つ機会を設けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・今まで大切にしてきた友人や親族と自由に交流できるよう訪問を歓迎している。	・盆や正月に親族が事業所で一堂に会したり、元同僚が訪ねてきたり、疎遠になっていた親族と再会するなど、友人や親族と自由に交流できるよう訪問を歓迎している。 ・暑中見舞いや年賀状、手紙の返事書きなどの支援をしている。	

ミモザ茅ヶ崎菰園（しおかぜ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者が孤立しないで交互に交流できるよう職員が配慮している。気のあった仲のよい利用者同士で散歩したり、席の配慮を行うなど声かけにも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去された利用者の家族でも、いつでも相談にこられるように話をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・毎日の生活の中から利用者夫々の思いや希望を把握するよう努めている。聞き取り困難な利用者についても、職員の意見や家族の意向から汲み取るようにして、情報を共有している。	・一人ひとりのペースに合わせた見守りの中で利用者の話を聞き、思いや意向を把握している。 ・聞き取りが困難な方には、表情などから気持ちを汲み取り、会議や申し送り、全員が情報を共有するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・親族や利用者から生活歴や暮らしぶりを聞き、これまでの生活についての情報を得ながら個人の生活を大切に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・利用者の現状を把握して、一人ひとりの1日の過ごし方を一緒に考える。		

ミモザ茅ヶ崎萩園（しおかぜ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の残存機能を活かした自立支援に向けてカンファレンスを毎月開催している。カンファレンスには、家族が参加していただきケアプランに反映し作成している方もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月カンファレンスで、現場のスタッフから課題や意見を聞き、ケアプランの作成に反映している。 ・通常3か月ごとに、ケアプランを見直ししている。会議には家族にも参加してもらい、本人や家族の希望をケアプランに反映している。 	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の介護記録は個別に記入し、職員同士情報を共有しながらケアプランに活かしている。 		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問診療等で24時間体制がとられている。医療関係者の指示に応じて対応している。 		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会、近隣住民、地域包括支援センター、職員が参加する運営推進会議を開催し、地域ボランティアなどと協働して支援している。 		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・協力医院の医師が、月2回往診していて、ご利用者の現状を把握している。また、家族の希望を尊重して、納得のいくかかりつけ医を利用してもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の付き添いを原則とし、希望に応じて、従来のかかりつけ医を利用してもらっている。 ・訪問診療医が月2回往診するほか、歯科医が月1回往診している。 ・協力医療機関とは、24時間の相談体制が整っている。 	

ミモザ茅ヶ崎菰園（しおかぜ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日常の健康管理について気軽に相談でき支援も顔なじみの看護師に相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・医療機関と連携を密にして、早期退院に向け情報交換。相談に努め支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化や終末期ケアについての対応は、家族の意向と事業所の意向を共有化し、支援に取組めるよう努力する。	・医療連携体制加算を得ていないため、重度化や終末期のケアに関しては、契約時に家族の意向聴取し事業所の方針を説明して、可能な範囲で支援している。 ・入退院を繰り返すようになった場合も、スタッフはケアの方針を話し合い、できる範囲で支援している。	
		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時のマニュアルがあり、全職員は消防署が行う救急救命措置を必ず受講しており、応急対応を行うことは可能である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災避難訓練や職員による消火器取り扱い訓練が年2回実施されている。非常時にすぐかけつけられる職員が多数在住している。加えて近隣の住民からの協力の約束がもらえている。	・年2回防災訓練を実施しており、夜間を想定した訓練も行った。課題であった利用者の誘導に関しては、近隣の住民に働きかけ協力が得られることになった。東日本大震災の教訓を活かし、津波を想定しての対策も話し合っている。	

ミモザ茅ヶ崎萩園（しおかぜ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者に対して、入居時に契約書で「安心と尊厳のある生活の支援」「秘密保持」を約束している。また、職員は自尊心を大事にした言葉かけをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は、入社時の研修でプライバシーや個人情報保護の研修を受け、言葉遣いに気をつけ利用者の尊厳を損なわないように支援している。 ・人前で個人に関する会話はしない、トイレ誘導の声掛けはさりげなく行うなど、プライバシーへの配慮を徹底している 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、毎日の過ごし方、洋服など、自分の思いを表せるよう働きかけ、自己決定できるように支援している。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者はそれぞれの能力に応じて仕事の分担をしている。また、それぞれ自分のペースで過ごして職員はそれとなく見守りしている。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。また、理美容は本人の望むようにしている。 		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者には、下ごしらえや盛り付けなどを手伝ってもらっている。また、希望にそった食事を提供できるように、調査を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミキサー食、刻み食など利用者の状況に応じて食べ易く調理し、職員と一緒に食事を楽しんでいる。 ・菜園で胡瓜や茄子などを栽培して、食卓に供している。年3回、近くのファミリーレストランや寿司店で外食する機会を設けている。 	

ミモザ茅ヶ崎菰園（しおかぜ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・お1人お一人の状態を常に観察し、また今までの習慣を家族にお聞きして食事量や水分量を適量確保できるよう支援している。献立は、栄養バランスに気をつけて作成している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・職員は口腔ケアの大切さを理解し、声かけ、見守り、一部介助にて口腔ケアを励行し、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・お1人お一人の排泄パターンをつかみ、誘導する事により極力オムツの使用を避けている。また、失敗した時にもプライドは傷付けないよう配慮する。	・利用者の排泄状況をチェックして排泄パターンを把握し、タイミングを見て声掛けをしている。また、利用者の身振りや表情からさりげなくトイレに誘導して、極力オムツを使わず排泄の失敗を防ぐなどの支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・ご利用者がなるべく身体を動かし、繊維質の多い野菜中心の献立にするなど工夫している。水分補給にも心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・ご利用者の希望の時間帯や回数に入浴ができる。柚子湯や菖蒲湯など、季節の行事を大事にして、好みの入浴剤、湯温で入浴を楽しんでいただけるよう工夫している。	・入浴は週3回、入浴時間や回数はできるだけ利用者の希望に沿うよう努めている。入浴を好まない方にはタイミングをみて誘導したり、身体能力に問題のある方にはシャワー浴などで対応している。季節の菖蒲湯やゆず湯で入浴を楽しんでいる。	

ミモザ茅ヶ崎菰園（しおかぜ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・不安により休めないご利用者には、職員が話し相手になったり、個々の生活習慣を大事にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員は個々に使用している薬について常に勉強をおこなっており、目的や副作用について理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・ご利用者の生活歴や能力に応じて張りのある生活が出来るよう、それぞれの特技等がのばせるよう、ボランティアのかたの協力を得て支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・市の敬老会等には地域の民生委員方々や家族の方にも協力していただき出かけられるよう支援している。また、天気の良い日はドライブや外出会の計画を立てている。	・花見、苺狩り、地域の夏祭り、初詣などの行事は、利用者の希望を入れて実施している。 ・現状、スタッフの手が回らず、日常の散歩や買い物などの外出は十分とは言えず、今後の課題である。	・家族やボランティアの協力を得るなど、利用者の希望に沿った日常的な外出支援に取り組まれることが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ご利用者が個々にお金を所持し、最寄りのスーパーで好きな買い物ができるよう支援している。		

ミモザ茅ヶ崎萩園（しおかぜ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・家族から職員に電話の際も、ご本人が電話に出たり、本人自ら電話をかけたりされている。 はがき、年賀状が届いた際は本人から返信したり出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングにおいてご利用者はテレビをみたり、談笑したりして思い思いにくつろいでいる。また、リビングにも手摺が付き安全にも配慮されている。	・日差しが差し込むリビングには、ソファや木目調のテーブル、椅子を置き、落ち着いた雰囲気がある。 ・壁には利用者の絵や習字などの作品を飾り、生活感や季節感を演出している。 ・室温や湿度に気を配り、利用者のそぶりなどで敏感に調節している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ご利用者が思い思いの時間を過ごす事が出来るように、しかし孤立する事がないように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ご利用者が自宅にて過ごされた環境に少しでも近づけるよう居室には慣れ親しんだタンスや思い出の品、写真など多彩である。仏壇を持参しているご利用者もいる。	・居室には、利用者が入居前に使用していた馴染みのタンスやテレビ、家族の写真や仏壇をもち込み、居心地の良い居室作りをしている。 ・居室の掃除は、職員の支援を得て利用者同士が助け合いながら行い、利用者間の親交を深めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・バリアフリーを意識した建物で、手摺の設置は勿論車イスやシルバーカーを使用のご利用者も安全に生活できるような工夫されている。		

事業所名	ミモザ茅ヶ崎萩園
ユニット名	さざなみ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

ミモザ茅ヶ崎萩園（さざなみ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の経営理念、運営方針、事業所独自の理念と、理念に対する介護の心得を作り壁に貼り付けているし、職員間で理念の共有、実践に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会長より地域の催しを教えていただき、桜祭りや盆踊り等、体調のすぐれないご利用者を除き、誘い出かけている。 又、市内中学生のボランティア等交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の介護相談などを積極的に受け、地域住民が気軽に立ち寄ってくれるホームを目指している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、入所人数、見学者、ボランティアの受け入れ等の報告、安心できる生活の場作りについてお話し、最近では避難訓練についての報告をし、会議でいただく意見も取り入れ取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホームの意見交換会や施設部会により情報交換をし協力関係を作っている。		

ミモザ茅ヶ崎萩園（さざなみ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会を通し、身体拘束について正しい理解を深め、職員間での共有、実践に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は全体会議、ミーティング等で報告し合い、事業内で虐待が見過ごされることが無いよう注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通して地域福祉権利擁護事業や、成年後見人制度について学ぶ機会を持った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所は訪問調査や契約時等で、不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解、納得を図るよう努めている。 解約時は利用者、家族と十分に話し合い（長期入院の為退居等）を説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりコミュニケーションを図り、利用者、家族等の意見は職員の気付きとして、スタッフミーティング、サービス担当者会議等にあげて意見の反映に努めている。		

ミモザ茅ヶ崎萩園（さざなみ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、職員による意見、提案、改善のコミュニケーションを心掛けてくれている。スタッフ会議や全体会議で報告され、職員の意見を聞いて話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	創業式典に、社長賞や本部長賞などを設け、表彰している。 処遇改善交付金をいち早く容認し、4月から増額の為に見直した。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	エルダー社員制度があり、新人職員にその都度ケアや支援方法を指導している。法人内外の研修を受ける機会の確保（認知症実践者研修、認知症実践者リーダー研修等）にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	年に数回、グループホームの管理者が集まり意見交換会を通して、他のグループホームの意見や経験をケアに活かしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、ケアマネージャーで訪問調査を行い、本人自身より話をよく聴き安心していただけるよう努めている。 又、家族からご本人の特徴等よく聞く。		

ミモザ茅ヶ崎萩園（さざなみ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時、家族とコミュニケーションを図り、会話の中で家族の思いや不安や要望等を尋ね、よく話を聞き、安心していただける関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番必要なサービスを見極める為、本人への身体、精神状態について十分な話し合いをする。サービス利用についても、グループホームがどのような場所なのか理解不足の家族も居られる為、いつでも見学、相談等の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場として、一人ひとりのご利用者、その家族より、生活歴、生きてきた背景を理解しながら、家事やレクリエーションを通し、共同生活として支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に日頃の様子をお話しし、家族の認知症への不安等気持ちを汲み取りながら今後の支援等含めた本人と家族の支えていく関係作りを、話や1ヵ月毎の生活状況を通して築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と関係ある方々等いつでも足を運んでくれる雰囲気作りをしている。		

ミモザ茅ヶ崎萩園（さざなみ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を、日頃より職員で良く観察し把握し、職員が仲介することで関わり合えるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に移られた利用者の所に、馴染みの職員が機会を作って訪問に行くようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの個性を大切にし、昔からの暮らし方の希望、意向把握に努め、生活してきた今までの背景も把握し本人本位へのケアに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの把握を、利用者本人、また家族から情報収集することで、これまでのサービス利用の経過等含め把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタル測定、排便等少しの変化への気付きを大切に、日勤夜勤者からの申し送り等で心身状態等の把握をするよう努めている。		

ミモザ茅ヶ崎萩園（さざなみ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの観察をよくすることにより、その人にとっての課題、必要なケアを職員同士で考え、本人、家族、医療との連携により、ケアカンファレンスやモニタリングをしながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は毎日の気付きを大切にしている。記録記入をした職員以外が記録を読んで状態や情報が分かるような記録記入に努め、共有し、ケアへの実践に繋げている。 職員一人ひとり記入の違いがあり、書き方の統一への課題あり。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療で24時間体制がとられている。体調が少しでも悪くなった場合等、医療関係者の指示に応じて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センターにも参加してもらうようになり、支援に関する協力関係を築いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の訪問診療の実施があり、主治医と職員以外に本人にも直接話し、体調や不安なことを本人の口から聴くことで、時に家族も同席し、納得の得られる適切な医療を受けている。		

ミモザ茅ヶ崎萩園（さざなみ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者が体調が悪くなった時や転倒時、急変時等24時間連携が取れ、指示を受けることが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携先の病院と連携しており、随時状況を把握している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から、家族に状況を伝え、職員には毎日の申し送りやスタッフ会議等でケアの方向など話している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時への訓練や研修等、もっと機会を増やし今以上に実践力をつける必要がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については、避難訓練を定期的に行っているが、全職員が適切な行動を出来るよう身につける必要がある。		

ミモザ茅ヶ崎萩園（さざなみ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重するため、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを実践、思いを汲み取れる対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の場面で、ご本人が自分で決める時は尊重し、職員がわかりやすい説明をし、安心して頂けるよう支援している。希望を表わせる時は傾聴し、思いへの尊重に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にして、本人の希望に沿った支援に努めている。ベットに横になりたいという希望があれば横になって頂く。外に行きたいという希望があれば、なるべく本人の言うタイミングに合わせ付き添い、外に出れるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれの支援をしている。女性の利用者で化粧やマニキュア等職員から働き掛けると応じて下さる時がある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時は役割を持って頂き、準備や盛り付け、片付けをしている。 ・箸を置く方 ・盛り付け、野菜を切る方 ・テーブル拭き、食器を洗う方		

ミモザ茅ヶ崎萩園（さざなみ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックを毎日行うことにより栄養摂取が出来ているか、水分量チェックをしながら確保している。状態や力等をよく観察し変化に気づくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入床前は本人による歯磨きや口腔ケアの徹底は全利用者出来ているが、朝、昼食後は一部の利用者しか実践していない。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	便意、尿意のない方には、本人への声かけ、表情、仕草から汲み取り、納得の上誘導し、排泄パターンの支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を職員一人ひとり理解し、医療機関と連携を取りながら、飲食物の工夫や運動、下剤の調整等、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴拒否のある方へは希望を聞き、タイミング良く入ってもらおう。 季節の行事では柚子湯にしたり、入浴を楽しんで頂きえるよう支援している。		

ミモザ茅ヶ崎萩園（さざなみ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃の観察から、椅子や車椅子で傾眠されているご利用者には居室で休まれるよう声かけしている。状況に応じて、休息したり眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、薬剤師による勉強会に職員が参加したり、日頃より医療機関との連携により、薬の目的や副作用、用法、用量について理解に努め、服薬の支援につなげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に張りを持って頂く為、一人ひとり個別の役割（家事）や楽しみごと（趣味）の支援をしている。楽しみごとについては今後も職員同士アイデアを出し合い、支援に努める必要がある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事の外出支援（いちご狩りや初詣等）は出来ているが、現状として外出出来る職員の人数が足りず、ドライブに行くことも少ない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム管理だが、だいたいだがお金については、一人ひとり使えるように話してはあるが、自由に所持して使えるようにはなっていない。買い物には必ず職員が同行し金銭の管理をしている。		

ミモザ茅ヶ崎萩園（さざなみ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは現在していないが、電話を出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活の場の為、ご利用者一人ひとりが気持ちよく、居心地の良い環境作りに努めている。 生活感や季節感を採り入れた空間を作り、写真等も貼り、家族にも行事の様子等見て頂けるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事スペースとソファがあり、一人で新聞や本を読んだり気の合うご利用者同士座り、思い思いにお茶を飲んだり過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、本人や家族の希望を相談しながら、仏壇やチェスト等好みのものが置かれている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの残存機能を活かし「出来ること」や「わかること」を活かし、スタッフミーティングやケアカンファレンスをしながらか、朝夕の申し送りや体調の把握をし、安心、安全な生活の場作りをし、生活出来るよう支援している。		

目標達成計画

事業所名 ミモザ茅ヶ崎萩園

作成日 平成23年7月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束の視点において、2階の出入り口が施錠されていた。	鍵を掛けないよう、常に見守りに重点をおき、視野を広め注意力を高めることをスタッフ一同が努力して共有する。	日々、開放する時間を設けてその時間を徐々に伸ばし、スタッフを訓練していく。	6カ月
2	35	災害対策として、非常時の備蓄量が現在2日分しかないが少ない。	速やかに非常食を確保する。	避難訓練の度に、数量や賞味期限をチェックしスタッフ全員が保管場所を分かるようにする。	6カ月
3	49	以前と比べて外出の機会が減少しているようである。	月に1回は買い物や近隣のケアセンターで行われるイベントに参加できるようにしたい。	スタッフ又はご家族のご協力のもとで安全を確保しつつ計画をしたい。	6カ月
4					
5					